

令和4年

第10回10月定例教育委員会議事録

令和4年10月27日

大野城市教育委員会

次 第

- 1 招集日時
○招集日 令和4年10月27日
○開会時間 午前10時00分
○閉会時間 午前11時05分

- 2 招集の場所 大野城市役所 本館4階 全員協議会室

- 3 会議次第
 - (1) 議事録署名委員
令和4年第9回議事録の署名委員 梶原 千春 委員
10回議事録の署名委員 高木 和敏 委員

 - (2) 議事 なし

 - (3) 教育長報告 なし

 - (4) 報告
 - ①令和5年度大野城市奨学資金奨学生（学力奨学生枠）選考結果について
(教育政策課)
 - ②令和4年度全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査結果報告について
(教育支援課)

 - (5) その他
 - ①9月定例議会一般質問の概要について
 - ②教育長の業務報告（9月～10月分）
 - ③教育委員会の主な行事・業務の予定（11月分）

- 4 出席した委員等 伊藤 啓二（教育長） 高木 和敏 梶原 千春 松本 民仁
高野 英機 山口 典子

- 5 欠席した委員 なし

- 6 出席した職員 教 育 部 長 日野 和弘
教 育 政 策 課 長 橋元 啓樹
教 育 振 興 課 長 中島 大輔
教 育 支 援 課 長 山崎 栄子
教育支援課主幹指導主事 清尾 昌利
ス ポ ー ツ 課 長 中川 啓
教 育 政 策 課 係 長 川口 司寛
教 育 政 策 課 担 当 佐藤 恵士
尾ノ口 加代子

- 7 会議の書記 教育政策課担当 尾ノ口 加代子

午前10時00開会

○伊藤教育長

ただいまから、令和4年10月定例委員会を開会いたします。

〔会議録承認〕

○伊藤教育長

まず、議事録の承認に入ります。

前回の9月定例会は梶原委員にお願いをしておりましたので、署名をお願いいたします。

○梶原委員

はい。

○伊藤教育長

今回の議事録の署名については、高木委員にお願いしたいと思います。

次回の委員会にて署名をお願いいたします。

○高木委員

はい。

○伊藤教育長

それでは、議事に入っていきます。

〔議 事〕

○伊藤教育長

3番、今回は議事についてはありません。

〔教育長報告〕

○伊藤教育長

4番、教育長報告。資料を出しての報告事項は特段ございません。学力向上に関し

まして1点お伝えしたいことはありますが、5の報告のときに学力調査の結果についての報告がありますので、そのときに併せて私のほうから報告をさせていただきたいと思います。

〔報 告〕

○伊藤教育長

次に、5の報告に参ります。

(1) 令和5年度大野城市奨学資金奨学生（学力奨学生枠）選考結果について、橋元教育政策課長、説明をお願いします。

○橋元教育政策課長

それでは、大野城市奨学資金奨学生（学力奨学生枠）の選考結果につきまして、説明をさせていただきます。

1 ページをお願いいたします。1. 学力奨学生枠選考試験実施報告です。

(1) 実施日に書いておりますとおり、高校奨学生枠対象の試験を令和4年8月21日曜日、大学奨学生枠対象の試験を8月27日土曜日、その試験日に新型コロナウイルス罹患により出席ができなかった方を対象に令和4年9月8日木曜日、それぞれ実施をさせていただきました。

(2) 実施場所は大野城市本館4階全員協議会室、委員会室、本館5階511会議室を利用しております。

(3) 内容につきましては、論文試験と面接試験の二本立てで実施させていただきました。

(4) の応募者ですが、高校奨学生枠が17名、大学奨学生枠が14名で計31名の応募があり、昨年度の8名から今回、大幅増となっております。

(5) 論文審査官につきましては、選考委員3名で採点をそれぞれしております。

(6) 面接試験官はこちらに記載のとおり、選考委員2名1組で、それぞれ面接を行っているところでございます。

(7) 募集人員とありますが詳細に申し上げますと、内定の人数でございます。高校奨学生が3名、大学奨学生が2名ということでさせていただいております。

続きまして、2. 選考結果です。

(1) 高校奨学生につきましては、先ほど申し上げた面接試験と論文試験の点数を

平均し、小数点以下第2位まで求め、上位3名を内定者、4位を補欠とさせていただきます。

(2) 大学奨学生につきましても、高校奨学生と同様のやり方で行い、上位2名を内定者、3位を補欠とさせていただきます。

なお、こちらの選考につきましては3.選考委員会による学力奨学生枠選考結果の審議に書いておりますとおり、10月7日金曜日に、本館4階全員協議会室で選考委員の方にお集まりいただき、審議を行い、承認をいただいたものとなっております。

4.その他にありますように、現在、従前の制度で奨学資金を受給されている方も受験ができるということにしておりましたが、選考の結果、今、受給をされている方は今回の選考の内定から漏れております。最後になります。裏面に参考として、今回内定者になった方の学校などを掲載しております。説明は以上です。

○伊藤教育長

それでは、ただいまの説明に何か御質問はございますでしょうか。高野委員。

○高野委員

今、報告の中で増額を希望する現役奨学生の結果について、内定には至らなかったということでしたが、応募は何人いらっしゃったのでしょうか。

○伊藤教育長

橋元教育政策課長。

○橋元教育政策課長

応募数は4.その他に「令和4年度奨学生の応募は」と書かせていただいておりますように、7名いらっしゃいました。

○伊藤教育長

そのほか、何かありますでしょうか。梶原委員。

○梶原委員

その選考に漏れた子たちは、引き続き、今までの分はもらえるんですか。

○伊藤教育長

橋元教育政策課長。

○橋元教育政策課長

今、受給されている方で、応募されたにもかかわらず今回の選考から漏れた方につきましては、従前と同じ金額の制度を残しておりますので、その分は支給されることになります。ちなみに、その方々にも、追って通知を差し上げたいと思っております。以上です。

○伊藤教育長

よろしいですか。

○梶原委員

はい。

○伊藤教育長

それでは、次に進みます。

(2) 令和4年度全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査結果報告について、清尾教育支援課主幹指導主事、説明をお願いします。

○清尾教育支援課主幹指導主事

令和4年度の全国学力・学習状況調査及び福岡県学力調査の結果について報告をさせていただきます。

お手元の資料、1ページを御覧ください。

まず、全国学力・学習状況調査について報告いたします。

実施日は本年4月19日、対象は小学6年生及び中学3年生となっております。

例年、国語と算数・数学の2教科ですが、今年度は理科も含まれ、3教科実施されています。受けた人数については、下段の表に書いてあるとおりでございます。

それでは、結果の概略について簡単に説明をさせていただきます。

2ページを御覧ください。

小学校の各教科の平均正答率を数字で載せております。

国語、算数、理科ともに、大野城市は福岡県、それから全国よりも高い数値となっております。全国比、全国を100としたときの数値を表の下の方に載せております。国語は105.2、算数は104.4、理科は105.8となっております。

中学校の全国比は、国語105.8、数学112.8、理科105.5となっております。

小中学校ともに、いずれの教科についても全国平均を上回っている状況となっております。

3ページに経年変化のグラフを載せております。こちらは当然、毎年受けている子供たちが違いますので、本市の毎年受けている全国平均値となっております。

上段の小学校、破線が国語となっております。令和元年は113でしたが徐々に落ち着いて、下降気味の状況ですが、依然として全国平均よりも高い数値を示しております。

下段の中学校、国語が若干下降しておりますけれども、全国よりも高い状況です。特に中学校の数学は全国平均よりもはるかに高い数値を示しています。

4ページを御覧ください。

ここから、各小中学校の教科別の結果を載せていますが、本日は概略だけ説明させていただきます。

まず小学校の国語です。全国を上回る結果が出ています。「書くこと」が少し低い状況ですが、これは全国、県も同じ傾向で、全国比に直すと非常に高い数値、よくできているということになります。

無回答率は低い状況にあります。記述式の回答を少し苦手に行っているところがあります。細かな問題とその課題については、お読みいただけたらと思っております。

6ページをご覧ください。

小学校の算数についても全国よりも高い水準となっておりますが、「変化と関係」は正答率が非常に低い状況にあります。こちらについては授業改善の視点を各学校に示して、授業改善をしてもらおうと思っているところです。

8ページを御覧ください。

小学校の理科についても全国よりも高い水準となっております。国語と算数と比べて若干、差が大きな結果となっておりますので、満遍なく子供たちに学習を進めていかなければならないと感じているところです。

11ページを御覧ください。

中学校の国語です。数学に比べると若干低い状況にはありますが、それでも全国比

105.8となっております。正答率を見ていただくと12問正解、13問正解と高いところに表れていますので、よくできていると思います。

「書くこと」がほかの領域よりも低いですが、これは全国、県も同じ傾向にあり、全国比に直すと非常に高い数値を示しています。また、無回答率も非常に低い状況にあります。問題別については、時間があるときにお読みください。

13ページを御覧ください。

中学校の数学でも非常に高い結果が出ています。全国比112.8ということで、特に、「数と式」では118.6という非常に高い正答率となっており、無回答率も非常に低く、全国でもよく頑張っている状況となっております。

領域別の差が昨年度より若干低くなっていますが、昨年度17ポイント差が今年度は20ポイント差と大きくなっていること、「図形」の問題で非常に正答率が低く、無回答率がほかの問題に比べると非常に高かったことから、授業改善をしていく必要があると考えております。

16ページを御覧ください。

中学校の理科についてです。全国比105.5となっており、全体的に全国よりも高い結果となっておりますが、問題形式別の短答式の平均正答率の値が低い状況です。

「エネルギー」「地球」などの領域が若干低い状況となっております。

問題別の改善点等については、お時間があるときにお読みください。

19ページを御覧ください。

基本的な生活習慣についての調査結果が出ております。こちらについて少し説明させていただきます。

朝食の喫食率についてですが、例年、低い状況になっています。全国よりも低く、毎日食べている小中学生は、全国で84.9%が毎日食べているというところですが、大野城市は83.5%。中学校のほうは若干高い状況となっておりますので、こちらは家庭にも啓発していく必要があると思っています。この朝食の喫食率と、学力との関係にあるという研究結果も出ていますので、こちらもしっかり伝えていきたいと考えています。

20ページを御覧ください。

非認知的能力、本市は道徳教育を推進している市でございますので、こういうところも結果をしっかりと分析していきたいと思っています。特に、「自分にはよいところがある」と答えている小学生が非常に高く、全国39.4%に比べて、大野城市は44.4%

となっております。

中学校については若干低い状況になっていますが、全国とおおむね変わらないということです。「将来の夢や目標をもっている」についても、小学校は高く、中学校は全国、県と変わらない状況となっております。

こういうところを基に、教科学習だけではなく、総合的な学習やキャリア教育などにつなげ、自分にはよいところがあると答えられる、それから将来の夢を持った子どもたちに育っていくよう、指導していきたいと思っています。

それでは、ほかの項目もたくさんありますが、省略させていただきます。

概略については26ページ以降、経年変化や各教科についても説明をさせていただきます。

続いて、28ページ以降が、福岡県学力実態調査の結果になります。

実施日は6月21日です。対象の児童生徒は小学5年生、中学1、2年生です。全国学力学習状況調査を受ける前の学年です。福岡県では小学5年生、6年生、中1、中2、中3と、全国または県で学力調査を毎年行っていることになります。

では、結果について説明いたします。

まず小学校です。大野城市は国語算数ともに、県平均比、県を100とした場合に国語109.0、算数が108.8と非常に高い数値となっております。昨年度と受けた子どもたちは違いますが、昨年度と比べ国語プラス3ポイント、算数は若干低くなっている状況です。

中学校です。中学1年生については、国語106.7、数学104.7となっております。これは昨年比からすると、どちらも上昇傾向にあります。

続いて中学2年生です。国語107.8、数学113.6となっております。国語のほうは若干、昨年度よりも低くなっていますが、数学は高い状況にあります。

29ページ以降、全国と同様に、領域別、観点別の分析をしております。おおむね高い状況にありますので、日頃から先生方が授業をしっかりと頑張っていたという状況が、結果として表れていると考えております。説明は以上になります。

○伊藤教育長

それでは私からです。昨日、福岡事務所管内の教育長会がありました。資料はありませんが、口頭で報告させていただきます。

福岡事務所管内の主幹教諭に、学力向上に向けて各学校で行っていることに関して、

現在の評価、それに関する調査結果が示されていきました。その中で、大野城市だけではなく管内の話にはなりますが、学校の中で少し数字が低いというのは、子ども、児童生徒が、新しい学習指導要領になっても、主体的な学びが今一つできていない。要するに、自分の学びのスタイルをより積極的にしていこうという改善がまだ図られていないと感じている学校が多い、というものが一つ出ていました。これは先生たちと子どもたちが学習のスタイルを変えていくといえますか、新しい学習指導要領に合わせて進めていくことを意図的にやってはいても、まだ浸透できていないと、見てとれると思います。特に記述をしたりとか、自分で課題を見つけて仮説を立てたりとか、そういう学習を展開することが、まだまだ苦手だと感じています。

I C Tは大野城市もしっかり活用してもらっています。学校訪問でも見ていただいているとおりです。しかしながら、まだあの状況でも、主幹教諭、それから児童生徒の感覚では、まだ十分に活用できているところまでは至っていないというのが数値で出ています。この間の大野中学校の学校訪問でもそんな感じでした。まだ、子ども自身がI C Tを駆使して勉強に使っている感覚になっていないところが、やはり福岡教育事務所管内で全体的にある、というところですね。そういう結果も受けて、福岡教育事務所も、各活動を充実させること、I C Tの活用を充実させること、をテーマとして取り組んでいこうとしています。大野城市もその点については、十分歩調を合わせて進めていきたいと考えておりますし、学校も意識はしてもらっています。今後また数値が上がって、変わっていくかと思っておりますが、学力調査の結果では、決して子どもの学びの姿が悪いわけではないと思っております。学校訪問があと1校あります。そういう子どもの、学びの姿を意識して見ていただきながら、また御指導いただければありがたいと思っております。

それでは、この学習調査の結果について、何か御質問、御意見等がありましたらお願いします。

高野委員。

○高野委員

従来の正答率分布のグラフからすると、これは、中学の理科を見て偏差値のグラフのような感じで中央に最頻値が出ています。通常だと5割以上回答あたりから満点までの中央ぐらいに最頻値が出ます。昨年までは5割以下の正答率は全体の10%程度、中学の数学は20%ぐらいかもしれませんが。今年の学力調査になると20%で、中学の

数学とか38%が半数、正答率が50%未満なんです。理科は48%ぐらいになっているのです。これは、こういった傾向が今後も続いていくのでしょうか。

理科の問題を見てみたのですが、引っかけ問題が多く、気圧の問題でも通常新聞記事に載っている気象予報は、等圧線ごとにヘクトパスカルの数値が書いてあります。それがほとんどなくて、10ヘクトパスカルと4ヘクトパスカルの基準線しか書いてない、これでよく中学生が解けるなという気がするんですね。こういった問題の傾向が続くようだと、子ども達もやりがいがないのではないかと。やはり半分以上は正答して、よかったねというようなテストにしてやらないと。どうも、この全国学力・学習状況調査は、子どもたちをどういう方向へ導いていきたいのかという、不思議でならない結果だと思います。現場の先生方からも声を上げていただいて、学力調査の問題の作り方について、意見を出していただいたほうがいいのではないかと思います。感想です。

○伊藤教育長

ありがとうございます。全国調査の結果で、今回、理科の点数が非常に低かった傾向がありました。何か分析として顕著なものとか、把握していることがあればお願いします。

○清尾教育支援課主幹指導主事

細かな分析等まではできていないですが、今、御指摘のとおり問題の傾向として、従来の知識・理解を問うものだけではなく、それを活用して分析する、実験結果を基に自分の考えを構築していくなどに、シフトしているところが多いです。あとは数学も含めて、理科も実生活に伴った問題、いわゆる天気図であったり、タブレットの静電パネルや情報機器、それにまつわる問題というのがたくさん出ているという印象があります。ですから学校だけではなく、いろんな体験をしておかないと答えられないものを少し感じますので、その点について、教科だけではなく様々な体験活動をしっかり進めていくこと、それから各教科で学んだことをしっかり駆使する、活用していくことを授業に取り入れていく必要があるかと考えているところです。

○伊藤教育長

ありがとうございます。非常に興味関心を持っていただいていること、ありがたく

思います。今、高野委員が言われたように、全国調査の問題の傾向もいろいろ検討されながら、変わってきている状況があります。同じような傾向になっているところが、問題の繰り返しの練習、それが結果につながっているのではないかという指摘もされているようですから、そういうところも踏まえて、国も検討していく方向ではあるようです。いずれにしても、子どもの思考判断の力をはかる問題になることは間違いありませんので、やはり読み取る力、類推する力、比較する力が求められるので、授業の中でもそういった力を高める、授業改革、子どもの学び方の変革を図っていかねばいけないかと思っています。

何か御意見があれば、どうぞ。

○高野委員

もう1点いいですか。問題の中で太陽光の水素エネルギーの話が出ています。正解は太陽の光となっているのですが、実際、水の電気分解に必要なのは、太陽の光で発電した電気、もちろん、太陽の光があれば電気エネルギーが作れるということで、正答は太陽の光となっているんです。でも、通常は電気エネルギーがないといけないわけですね、太陽の光だけでなく。この福島の水素エネルギーをつくる場所、システムは太陽光で電気エネルギーを起こして、水の電気分解をやります。正答の選択肢の中に電気エネルギーもあるんです。でも、正答は太陽の光。電気エネルギーを選択した生徒が、これが正解ではないのかと思う選択肢が正解になっていない。

こういう問題の作り方は正しいのかと不思議に思いました。このような傾向が続くなら、本当に子どもたちはやりがいがないですよ。引っかけに遭わないよう注意しないといけない、そのような問題の作り方は、学力調査のテストとしてふさわしいのかと憤りを感じました。すみません、お時間いただきました。

○伊藤教育長

そのほか、何かありますでしょうか。山口委員。

○山口委員

質問です。この学力調査は小学校6年生と中学校3年生ということで、学校に来れない不登校の子や、特別支援の子どもたちはどう受けているのか、お伺いしたいです。

○伊藤教育長

清尾教育支援課主幹指導主事。

○清尾教育支援課主幹指導主事

全国学力・学習状況調査及び県の学力調査もそうなのですが、全国学力は新聞に載りますので、実施日の4月19日に受けるということが前提になっています。ただし、4月20日から5月20日であれば、受けることは可能です。結果には反映されませんが、その子に個別データを出せるとなっていますので、不登校のお子さん、その日に来られなかったお子さんについては、後日受験ができます。

また、特別支援学級のお子さんについては、この問題が解けるか解けないか、いわゆる通常、日頃の授業の中で、例えば小学6年生と同じ内容をしているお子さんであれば、当然受けて、学力の状況を見ることができのですが、知的学級に在籍している小学6年生で、ふだんは小学2年生の内容をしているお子さんであれば、この検査は受けていません。いわゆる同じ学年相当の学習をしている子が受けていると思ってください。以上です。

○山口委員

では、学校でそれぞれ判断をされているということですね。

○伊藤教育長

そうですね、基本は履修の教育課程を踏まえて判断することになっています。

そのほか、ありましたら。梶原委員。

○梶原委員

毎年、この報告をお聞きして、全国よりも上回るパーセンテージだからと安心してはいけないと思います。このパーセンテージの中に、全然解けてない子がどれぐらいいて、塾などに行っている優秀な子がいて、それを割ったパーセンテージなので。やはり分からない子を減らしていくのが不登校の防止になると思います。対策は書いてあるのですが、そこをしっかりとってほしいと思います。全国比を上回って良かった良かったとならないように。うちの子たちのときを考えると、学力試験がある前に少しドリルなどをやって点数が取れるように、学校で頑張ってしまう傾向が見えていま

した。ですから、受ける前よりもその後を大事にしてほしいと思います。

○清尾教育支援課主幹指導主事

御指摘のとおり、結果を基にどう改善していくかがポイントとなっています。まずは学校全体の傾向を見る必要があると思います。ふだんの授業では30人から40人が一緒に学習していますので、その集団の特徴・傾向を見てそれに対し授業を改善する必要があると思います。あとは梶原委員がおっしゃったとおり、個別です。結果が一人ずつ来ますので、それを担任、学年の教諭で全て把握することになります。その子にどんなつまずきがあるのかを個別に分析し、その子に応じた補助プリントや声かけ、または取り出し授業など、個別の支援をしていく必要があると思います。そこを丁寧にするよう、教育委員会として指示していきたいと思っています。

○梶原委員

よろしくをお願いします。

○伊藤教育長

補足です。先日の大野中学校の学校訪問の中で、C層、D層の子どもにどういう指導するかという提案がありました。学力調査でA B C Dと大体4層に分け、その結果を踏まえて、C層、D層の子どもたちのつまずきの状況をいかに改善していくか。これは教育委員会も学校も含めて、共通理解をしながらやっています。まさにそういうところ、梶原委員がおっしゃった趣旨を、徹底してやっていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

どうぞ。

○高野委員

もう1回いいですか。さっき梶原委員が言われたように、私も冒頭で言いましたけど、昨年50%未満の正答率の子どもたちは、昨年は10%前後だったのが、今年は小学校の国語で16.6、数学・算数で17.4、理科は今年からなので分かりませんが21.7。中学校の国語は11.8で、あまり変わりがありません。数学は32.8%、289人が半数、50%を達成してないのです。理科はさっき言ったように48.2%、半分が50%も正答できていない。要するに50%未満の子供たちが去年から比べると倍増しているという、

今までの学力調査をやっている範囲でも倍増しているのです、これには危機感を持って対策を考えていかないといけないのでは、という気がします。よろしくをお願いします。

○伊藤教育長

ありがとうございます。そのほか、よろしいでしょうか。どうぞ、山口委員。

○山口委員

感想ですけれども、22ページの学習習慣のところのアンケートで、小学生の2時間以上というところが20数%、自宅学習・家庭学習を1日2時間以上しているというところに驚いたのと、中学生も3時間以上と2時間以上を合わせて36%、2時間、3時間、自宅学習をしているところにちょっと正直驚きました。これは子供にアンケートを取っているということでしょうか。塾なども含めてだとは思いますが、子育てをしている身からすると、この数字に驚いたのと、いつも行っているランドセルクラブは宿題をする場所ですけれども、その時間、放課後に学校で学習させてる時間は、もう30分にも満たないような形で、そこの時間が少し足りないのかな、ということも含めて、この数字を見て感じました。以上です。

○伊藤教育長

何か、それについてほかにありますか。松本委員。

○松本委員

塾の話が出たのですが、塾に行っている生徒の掌握はされていますか。

○伊藤教育長

清尾教育支援課主幹指導主事。

○清尾教育支援課主幹指導主事

各学校へ塾に何人行っているか、調査依頼をしたことはありませんが、ただ、近隣市と同等、もしくは塾に行っているお子さんは多い可能性が高いかと思っています。

山口委員から御指摘いただいた家庭学習の時間についてですが、こちらは先ほど申し上げたとおり、小学6年生と中学3年生を対象に実施しております。小学校ではお

おむね各学年×10分程度の家庭学習を推奨しておりますので、6年生の児童については60分が標準、約1時間、つまり41.9%のところ为标准と考えております。ただ、お子さんによっては、1時間で終わらずに、1時間半かかるお子さんであるとか、あとは3時間以上かかっているのが、学校から出されている課題だけで3時間なのか、それとも塾に行った時間も含めているか、そこは分かりませんが、おむね41.9%というのが妥当な数字ではないかなと考えております。以上です。

○伊藤教育長

よろしいでしょうか。

○松本委員

もう一ついいですか。塾に行っている生徒を掌握されていないと言われましたけど、やはり塾に行っている子の出来と行っていない子の出来は、おそらく相当の差があると思います。私も数年前、塾に仕事で行っておりましたので、かなり塾に力を入れている家庭が多かったです。学力の差がかなりあると思いますので、ここでは参考意見として言いました。

○伊藤教育長

ありがとうございます。そのほかに何か御意見はよろしいですか。

たくさん御意見いただきました。教育支援課も意識してやっているものが沢山あると思いますが、また学校と一緒に、校長会等でも共有しながら、学力向上の施策について進めていきたいと思っております。先ほども言いましたように、やはり二極化まではいきませんが、その学力差を課題として感じているのは間違いありませんので、各学校、そこを意識した取組を進めてもらっています。また学校訪問の中でも御指導いただければありがたいと思っています。よろしく願いいたします。

[その他]

- (1) 9月定例議会 一般質問の概要について
- (2) 教育長の業務報告(9月～10月分)
- (3) 教育委員会の主な行事・業務の予定(11月分)

○伊藤教育長

それではこれで10月の定例教育委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

午前11時05分 閉会